

## 「広報誌)



〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 平成25年6月1日発行(第6号)

当センターも平成23年10月の本格始動から1年半 を経過いたしました。そこで新年度にあたり、平成 24年度の活動を総括し、今後の予定をご紹介します。

診療面では茨城県立中央病院とのチーム医療が定着 し、各専門診療科の強化、新設、大学病院に匹敵する 高度かつ先進的医療の提供などにより、病院の診療体 制、医療レベルの一層の向上に貢献し、成果を上げて おります。また、臨床研修にも積極的に関わってまい りましたが、優先的目標の初期臨床研修医(医学部卒 業直後の若手医師)の確保については、この春、多数 の採用者を得ることができ、病院のますますの活性化 が期待されます。

今年度はさらに放射線治療科に新教員(本誌にて紹 介)が採用になり、副作用の少ないより高度ながん放 射線治療が開始される予定です。さらにロボット支援 手術の導入が予定されており、ますます体にやさしい がん治療が開始されると思われます。

各診療科の昨年度診療実績と今後の予定は、以下の とおりです。

循環器内科:4月に日本不整脈学会・日本心電学会認 定不整脈専門医研修施設に認定、10月に高速回転式 経皮経管アテレクトミーカテーテル治療の施設基準届 出、11月に植込型除細動器移植術及び植込型除細動 器交換術の施設基準を取得し植込型除細動器移植術を 開始しました。今後は、300件以上のインターベンショ ン治療、100件以上のアブレーション治療の提供、日 本心血管インターベンション治療学会認定研修施設の 取得を目指しています。

循環器外科: 冠動脈バイパス術については心拍動下冠 動脈バイパス術を中心に手術治療を実施しました。ま たその他弁膜症や血管疾患についても緊急手術を含め た治療を実施し、今後はより緊急性の高い疾患への迅 速な対応を目指しています。

呼吸器外科:前年よりさらに多い肺癌手術件数を実施 しました。年末にはカナダのトロント総合病院胸部外 科に2か月間訪問し、ロボット支援手術や肺移植など 数多くの呼吸器外科手術を見学いたしました。今後は 胸腔鏡手術の割合を増加させることと、肺癌に対する ロボット支援手術の導入を目指しています。

代謝内分泌内科:糖糖尿病教室、糖尿病教育入院を通 じて糖尿病専門診療を地域に提供いたしました。また 副腎内分泌疾患の診断から治療までを完結できる診療 体制を確立しました。今後、糖尿病の外来透析予防管 理チームの発足を目指しています。

血液内科:ALSG(Japan Adult Leukemia Study Group) 臨床試験など、多施設共同臨床試験への参加を通じて 医療レベルの維持、向上を図っています。

**膠原病リウマチ内科**:関節リウマチの最先端の生物学 的製剤を用いた治療を実施しました。標準的メトトレ キサートを中心とした治療は、最新の情報に基づき、 また的確な開始時期により生活の質の低下を防ぎつつ 治療を実施しています。

**婦人科:**婦人科がん診療における標準治療の導入を行 い、定着いたしました。今後、手術支援ロボットシス テムや先進医療機器を利用し、さらなる高度医療技術 の導入を予定しています。

**泌尿器科**: 泌尿器腹腔鏡手術の導入のため手術チーム の編成と教育を実施しました。センター開設後、腎副 腎腫瘍を中心に40症例以上を実施し、腎部分切除な どの高度腹腔鏡手術も定着いたしました。また前立腺 癌のスクリーニング枠を拡大し、診断治療症例数は倍 増、今後はロボット支援手術の導入を予定しています。 麻酔・集中治療科:麻酔覚醒のモニターとしてBISモ ニターの全手術室配置、動脈圧測定用カテーテル穿消 毒のガイドライン準拠、集中治療医学会研修認定施設 の認可取得、緊急時の手術室輸血マニュアル改訂など を達成いたしました。

今後も活動状況をお知らせいたしますので、茨城県 地域臨床教育センターへのご支援をよろしくお願いい たします。



## 「茨城県地域臨床教育センターに赴任して」



筑波大学医学医療系教授 茨城県立中央病院放射線治療 センター長

玉木 義雄

平成25年4月1日に筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センターに赴任した"玉木義雄"と申します。専門は放射線腫瘍学(放射線治療)で、茨城県立中央病院の放射線治療センター長を併任しております。生まれは兵庫県ですが、中学、高校は愛知県、大学は群馬県で過ごしました。群馬大学医学部卒業後は同放射線医学教室で研鑽し、1993年に群馬県立がんセンターに赴任し20年間勤務しました。茨城県には学会や観光で訪れたことがある程度で、当センターのある笠間市が栗の名産地であることを初めて知り驚いています。赴任して1か月経過しましたが、電子カルテや放射線治療計画装置がこれまで使用していたものとは異なる機種であり、使いこなすのに苦労している状況です。電子カルテの違いが医師を招聘する際の障壁の一つであると聞いたことがありますが、今は自らが体験しています。

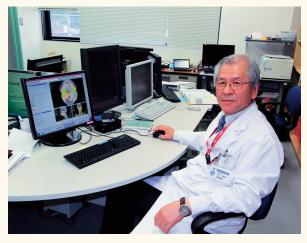
さて、放射線治療はがんの三大治療法の一つであり、がん対策基本法成立後は一般の方にも広く知られるようになりました。日本ではがん患者の約25%が初回治療として放射線治療を受けていますが、欧米と比べてまだまだ少ないのが現状です。諸外国では初回治療と再発時を含めると全がん患者の50%~70%に放射線治療の適応があると報告されていますので、日本においても放射線治療の潜在的需要は高く、今後も治療患者数は増加するものと思われます。最近の放射線治療の進歩としては、新しい放射線治療技術の普及と、化学療法などとの併用による治療成績の向

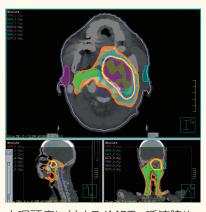
上があげられます。陽子線や重粒子線による粒子線治療は、日本が世界をリードしている分野です。X線治療では、強度変調放射線治療(IMRT)が普及し、平成21年には全身臓器に保険適応が認められました。IMRTは前立腺癌や頭頸部をでは、従来の治療法ととが証めないます。化学の大きでは、第の疾患で同時化学放頭癌などの疾患で同時化学が

射線治療により治療成績が向上していますが、一方では併 用療法に伴う重篤な有害事象への対策が課題になっていま す。最近では、頭頸部癌において分子標的薬との併用が保 険適応になり、化学放射線治療が新しい段階に入ったと言 えます。

当センターは地域医療再生計画の一環として、茨城県北、 県央の地域医療体制の整備を最終目標に平成22年10月に 開設されたと聞いております。前任地の群馬県は人口あた りの放射線治療専門医の数が日本一で、人口100万人あた り13人との調査結果があります(2011年、日本医療政策 機構がん政策情報センター調べ)。しかし、この数は多い のではなく米国の平均値と同じです。同じ資料によります と、茨城県は放射線治療専門医の数が人口100万人あたり 2.4人と最下位でした。幸い茨城県立中央病院には、私が 赴任する前から放射線治療専門医が2名常勤し、医師以外 のスタッフも充実しています。医学物理士の資格を有する 診療放射線技師が数名、がん放射線療法看護認定看護師1 名、今年度からは専従の医学物理士が1名採用され、大変 に恵まれた環境です。筑波大学でもこの2-3年で放射線 治療専門医試験に合格した医師が増えており、放射線腫瘍 医を志す若手医師も増えています。

当センターにおける私の課題は、1)シニアレジデントの教育を主軸に放射線治療専門医を養成すること、2)茨城県立中央病院でIMRTを開始し軌道にのせること、3)恵まれたスタッフや他診療科と協調しながら茨城県立中央病院をがん診療拠点病院としてさらに発展させること、4)県北、県央の放射線治療施設との地域連携を確立すること、と考えています。当院はがん診療連携拠点病院でありながら総合病院としての機能をもっています。この点はがん専門病院にはない強みであり、より多くの患者さんの治療に貢献できるものと期待しています。慣れない点が多々ありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願いします。





上咽頭癌に対する IMRT:唾液腺や 脊髄の線量を少なくできる。



## 筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページhttp://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/rinsyokyoiku/index.html

